

ヒューマペン®ラグジュラ

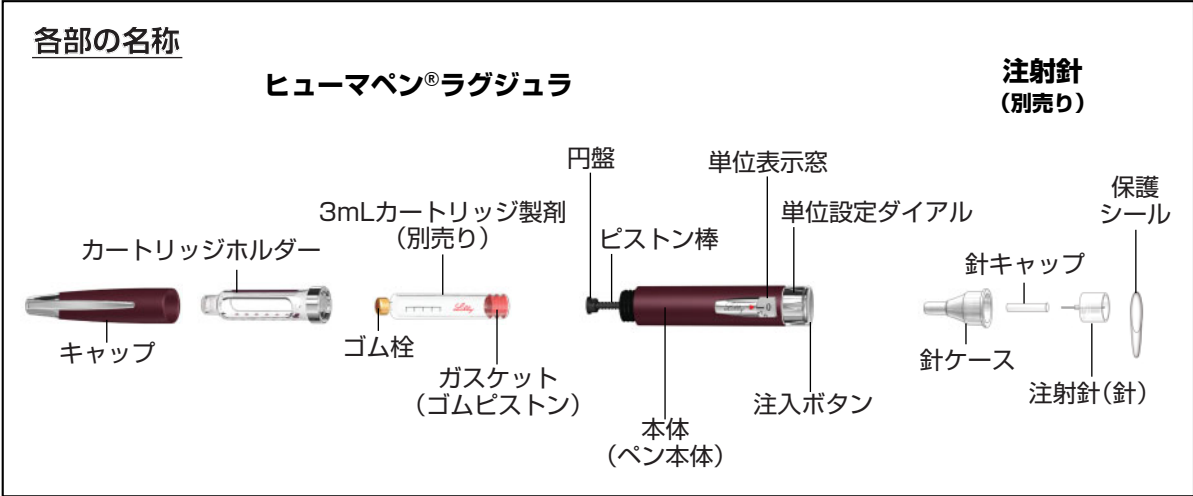
インスリンペン型注入器



ヒューマペン®ラグジュラは、ヒューマログ®注、ミックス25注、ミックス50注、N注またはヒューマカート®R注、N注、3/7注の3mLカートリッジ製剤（100単位/mL）（以下、「弊社の3mLインスリンカートリッジ」といいます）専用のインスリン注入器です。

ヒューマペン®ラグジュラは、上のイラストの2種の色があります。どちらの色のヒューマペン®ラグジュラも操作方法は同じです。

Lilly



ご使用になる前に

- ヒューマペン®ラグジュラは簡単にご使用いただけるようにデザインされています。
- ヒューマペン®ラグジュラは、弊社の3mLインスリンカートリッジを用いて1単位から60単位まで、1単位刻みで単位設定をすることができます。
- 単位設定を間違えても、インスリンを無駄にすることなく単位を修正することができます。

- ヒューマペン®ラグジュラをご使用の前に、必ずこの取扱説明書を最後までよく読んで、その指示に従ってください。指示に正しく従わない場合は、注射されるインスリンが設定量を超えてしまう、もしくは不足するおそれがあります。
- お使いのヒューマペン®ラグジュラの破損または異常にお気づきの時は、ただちに使用を中止し、主治医にご相談のうえ、新しいヒューマペン®ラグジュラと交換してください。
- ヒューマペン®ラグジュラを目の不自由な方がご使用になる場合は、操作法の訓練を受けた方の手助けを受けてください。
- 紛失や破損に備えて、予備のインスリン注入器を常に携帯してください。
- ヒューマペン®ラグジュラは、インスリンを正確に注射するための注入器です。この取扱説明書はいつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

使用上の注意

- 空打ちは大切な操作です。注射の前に必ず空打ちを行い、注射針の先からインスリンが流れ出てくることを確認してください。空打ちを行ってインスリンが針先から流れ出てくることを確認せずに、注射を行わないでください。インスリンが針先から流れ出てくるまで空打ちを行わなかった場合は、注射されるインスリンが設定量を超えてしまう、もしくは不足するおそれがあります。あわせて「こんな時は」の「空打ち 質問2」をご覧ください。
- 注射の前に必ずカートリッジホルダーが、しっかりとペン本体に取り付けられていることを確認してください。カートリッジホルダーが正しく取り付けられていない場合は、注射されるインスリンが設定量を超えてしまう、もしくは不足するおそれがあります。
- ピストン棒の先端の円盤は大事な部品です。円盤に過剰な力を加えると、円盤がはずれたり、故障の原因になることがあります。円盤を手でつまんでピストン棒を押し込んだり、引っ張ったりしないでください。また、円盤の付いていないヒューマペン®ラグジュラは使用しないでください。円盤は少しグラグラしていますが故障ではありません。円盤はインスリンカートリッジのガスケットに完全に接触するように、ある程度自由に動く設計になっています。
- カートリッジ交換後は、ピストン棒とガスケットの間にすき間がある可能性があります。この時はインスリンが出るまで、何度か空打ちを繰り返す必要がありますが故障ではありません。あわせて「こんな時は」の「空打ち 質問2」をご覧ください。

インスリン

- インスリンの注射にあたっては、必ず主治医の指示に従ってください。インスリン製剤の種類や単位数等を変更する際も、必ず主治医の指示に従ってください。
- ヒューマペン®ラグジュラは、弊社の3mLインスリンカートリッジ専用のインスリン注入器です。
- 1.5mLまたは他の銘柄のカートリッジを使用しないでください。
- インスリンの注射にあたっては、インスリン製剤に添付されている「患者用注意文書」もよくお読みになり、その指示に従ってください。
- 注射の前に必ずインスリンの種類を確認し、主治医から指示されたインスリンカートリッジが入っていることを確認してください。ヒューマペン®ラグジュラの本体の色はインスリン製剤の種類を表しているものではありません。

注射針（針）

- ヒューマペン®ラグジュラには、日本ベクトン・ディッキンソン株式会社のディスポーザブル注射針が適合しています。
- ヒューマペン®ラグジュラおよび注射針は他人と共用しないでください。
- 注射針の取扱いについてはこの取扱説明書にも記載されていますが、主治医や医療機関等から指示がある場合は、それに従ってください。
- 注射のたびに新しい注射針をご使用ください。これにより薬剤を清潔に保ち、インスリンの液もれ、空気の混入、針の目詰まりを防ぐことができます。
- 注射の終了後は空気の混入を防ぐために、すみやかに注射針をとりはずしてください。注射針をつけたままヒューマペン®ラグジュラを保管しないでください。

注射

- インスリンを注射する時は、注入ボタンをまっすぐに押してください。単位設定ダイヤルを回すだけではインスリンは出てきません。注射の途中で設定した単位を変更しないでください。
- 注入ボタンを押す時は、単位設定ダイヤルの側面に指が触れないように気をつけてください。

保管と手入れ

- ヒューマペン®ラグジュラを保管する際は、湿気やほこりの多いところ、極端に高温または低温になるところや直射日光は避けてください。
- ヒューマペン®ラグジュラを冷蔵庫に保管せず、室温で保管してください。
- ペンキャップ、ペン本体、ケースが汚れた時は、水を固く絞った柔らかい布で拭いてください。アルコール綿で拭くと単位表示窓、カートリッジホルダーの白濁や故障の原因となります。
- ペン本体へのアルコール、オキシドール、漂白剤の使用、また液体をかけたり、油や潤滑剤をさしたりしないでください。故障の原因となります。
- インスリン、食べ物、飲み物、その他異物がペン本体に入った場合には、注入ボタンが固くなって押しづらくなることがあります。
- インスリンの保管にあたっては、インスリン製剤に添付されている「患者用注意文書」もよくお読みになり、その指示に従ってください。

ヒューマペン®ラグジュラの交換

ヒューマペン®ラグジュラの耐用年数は、使用を始めてから3年間です。最初に使用した日付をここに書き留めておいてください：____年____月____日。使用開始から 3年が経過したヒューマペン®ラグジュラは、主治医にご相談のうえ、新しいヒューマペン®ラグジュラと交換してください。

ヒューマペン®ラグジュラに関して、質問や困ったことがある場合には、弊社医薬情報問合せ窓口「リリーアンサース」か、主治医にご相談ください。

こんな時は

インスリンカートリッジの取り付けと注射

質問1：カートリッジホルダーを装着できない時はどうしたらいいですか？

インスリンカートリッジがカートリッジホルダーに正しく入っているか確認してください。次にカートリッジホルダーがしっかりとペン本体に取り付けられていることを確認してください。（2ページの操作方法「1. インスリンカートリッジを装着します ④カートリッジホルダーを取り付けます」参照）

質問2：注射を行ったのに単位設定ダイヤルがゼロに戻らないのはどうしてですか？

これは、インスリンカートリッジ内のインスリン残量が、設定した単位数より少なかったためです。単位表示窓に表示されている数字は、カートリッジ内のインスリン残量が不足して注射できなかったインスリン量を示しています。この場合は、いったん注射針を取りはずし、新しいカートリッジと交換し、ペンを空打ちしてください。そして、注射できなかったインスリン量を設定し、注射してください。

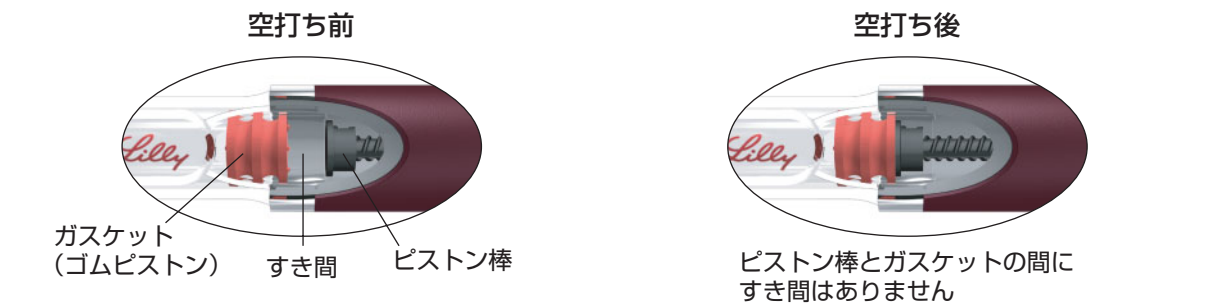
空打ち

質問1：注射の前に必ず空打ちしないといけないのはどうしてですか？

空打ちを行わなかった場合、注射されるインスリンが設定量を超えてしまう、もしくは不足するおそれがあります。空打ちは注射ができることを確認するための大切な操作です。空打ちを正しく行くと、インスリンが針先から流れ出てきます。1回の空打ちでインスリンが針先から流れ出てこない場合は、インスリンが流れ出てくるまで何回か空打ちを繰り返してください。

質問2：新しいカートリッジを装着したあと、何回か空打ちしないといけないのはどうしてですか？

ピストン棒とガスケットの間にすき間がある可能性があります。空打ちを繰り返すと、ピストン棒が前進し、ガスケットに接触します。ピストン棒の先端がガスケットを押すことで、インスリンが針先から出てきます。



- インスリンが流れ出るまで空打ちを繰り返してください。
- それでも（空打ちを繰り返しても）針先からインスリンが流れ出てこない場合は、質問3へ進んでください。

質問3：インスリンが流れ出るまで空打ちをしないといけないのはどうしてですか？

針先からインスリンのしずくを確認しても注射の準備ができていないのはどうしてですか？空打ちにより、ピストン棒がガスケットに接触し、カートリッジ内の空気抜きを行います。

空打ちをする際

- 最初に針を取り付けた時、針先からインスリンのしずくがこぼれることがあります。これは、針が取り付けられ、針詰まりがないことを示しているだけなので、ペンの空打ちを必ず行ってください。

- インスリンが全く出ないことがあります。これは、ピストン棒とガスケットとの間に、すき間があるからです。

- 空打ちを正しく行った場合には、インスリンが針先から流れ出てきます。

- 注入が重く感じられるのは、針が詰まっている可能性があります。新しい針を取り付け、インスリンが流れ出るまで空打ちを繰り返してください。

それでもまだインスリンが流れ出てこない場合は、そのペンは使用せず、主治医にご相談のうえ、新しいヒューマペンラグジュラと交換してください。

質問4：空打ちを行ったのにインスリンカートリッジ内に気泡が残っている時はどうしたらいいですか？

空打ちの操作を行うと、空気が抜けます。注射針を上に向けてペン本体を持ち、カートリッジホルダーを軽く指ではじくことで気泡が上部に集まります。インスリンが流れ出るまで空打ちの操作を繰り返してください。空打ちの操作を行っても小さな気泡が残ることがあります。正しく空打ちの操作ができていれば、わずかに気泡が残っていても、インスリンの注射量に影響はありません。

よくある質問

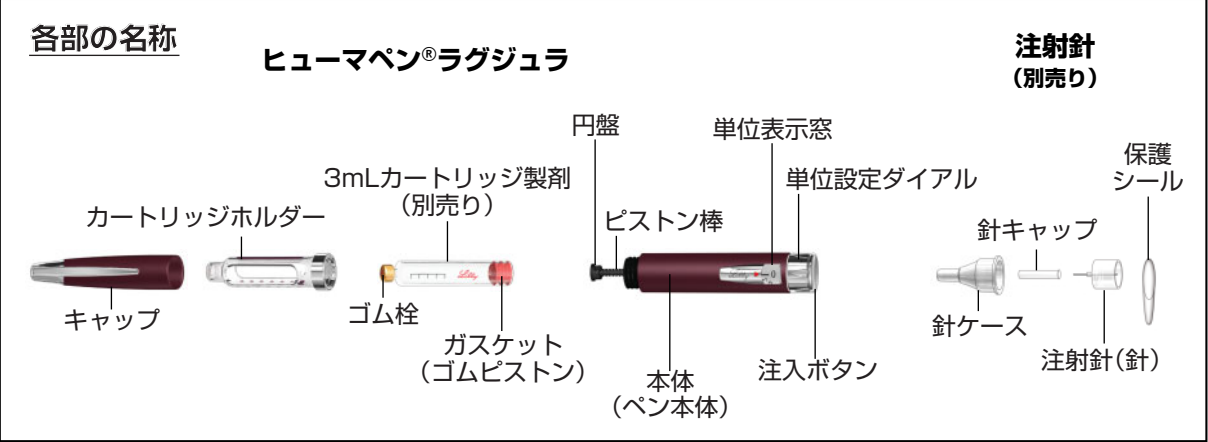
1. カートリッジホルダーにカートリッジが入っていないと、注入ボタンを押してもピストン棒が前に出てこないのはどうしてですか？

カートリッジホルダーにインスリンカートリッジを入れていないと、ピストン棒は前に出てこないように設計されています。カートリッジを入れるとピストン棒は前に出てきます。

2. 注射する時、注入が重く感じられるのはどうしてですか？

- 1) 注射針が詰まっている可能性があります。新しい針に交換してください。
- 2) 注入ボタンを速く押した場合には、注入が重く感じられることがあります。注入ボタンをゆっくりと押すようにしてください。
- 3) 注入ボタンを斜めから押した場合には、注入が重く感じられることがあります。注入ボタンの中心をまっすぐに押すようにしてください。また、注入ボタンを押す時は、単位設定ダイヤルの側面に指が触れないように気をつけてください。（2ページの操作方法「3. 注射 ②注射をします」参照）
- 4) 注入ボタンを押す力は、注射針の種類によって異なります。どの針を使うかは、主治医にご相談ください。
- 5) インスリン、食べ物、飲み物、その他異物がペン本体に入った場合には、注入ボタンが固くなって押しづらくなることがあります。

上記の操作方法で問題が解決されない場合は、新しいヒューマペン®ラグジュラと交換してください。



注射の準備をします

注射の準備を行う前に必ず手を洗ってください。また、下記のものがそろっているか確認してください。

- ヒューマペンラグジュラ
- ヒューマログ®注、ミックス25注、ミックス50注、N注またはヒューマカート®R注、N注、3/7注の3mLカートリッジ製剤（100単位/mL以下、「弊社の3mLインスリンカートリッジ」といいます）
- 新しい注射針
- アルコール綿

1. インスリンカートリッジを装着します

① キャップをはずします

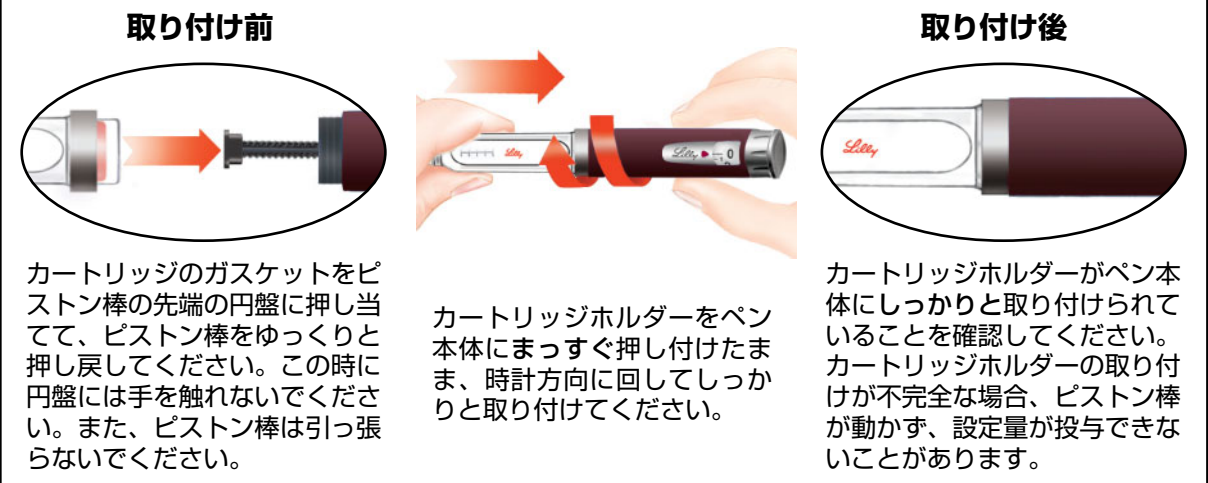


② カートリッジホルダーを取りはずします



初回使用時：ピストン棒が図のように出ていないことがありますますが異常ではありません。そのままカートリッジを入れたカートリッジホルダーを本体に取り付けてください。

④ カートリッジホルダーを取り付けます



⑤ インスリンを確認します



カートリッジの先端のゴム栓をアルコール綿でていねいに拭いてください。

製造販売元
日本イーライリリー株式会社
神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

2. 空打ち（注射の前に必ず行ってください）

① 保護シールをはがします



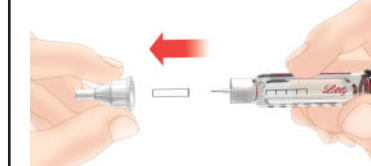
注射のたびに新しい注射針をご使用ください。注射針の保護シールをはがしてください。

② 注射針を取りつけます



注射針をカートリッジホルダーにまっすぐ押し当て、時計方向に回してしっかりと取り付けてください。

③ 針ケースと針キャップをはずします



針ケースと針キャップをまっすぐ引っ張り取りはずしてください。針ケースは注射後に注射針を取りはずす時に使用するので、とっておいてください。

④ 単位設定ダイヤルを2単位に合わせます



⑤ カートリッジを軽く指ではじきます



⑥ 空打ちをします



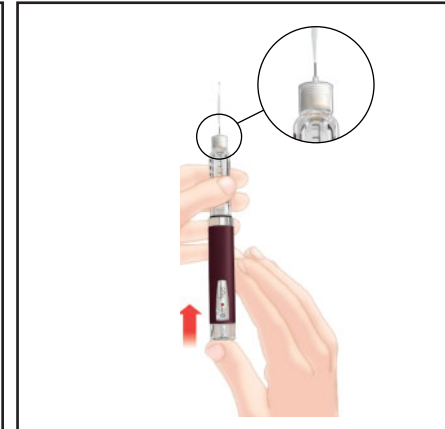
注意：初回カートリッジ使用時は、空打ちを繰り返すことが必要な場合があります。空打ちを繰り返してもインスリンが流れ出てこない時は、針が詰まっている可能性があります。

インスリンが流れ出なければ、空打ちを繰り返してください。

単位設定ダイヤルを2単位に合わせます。

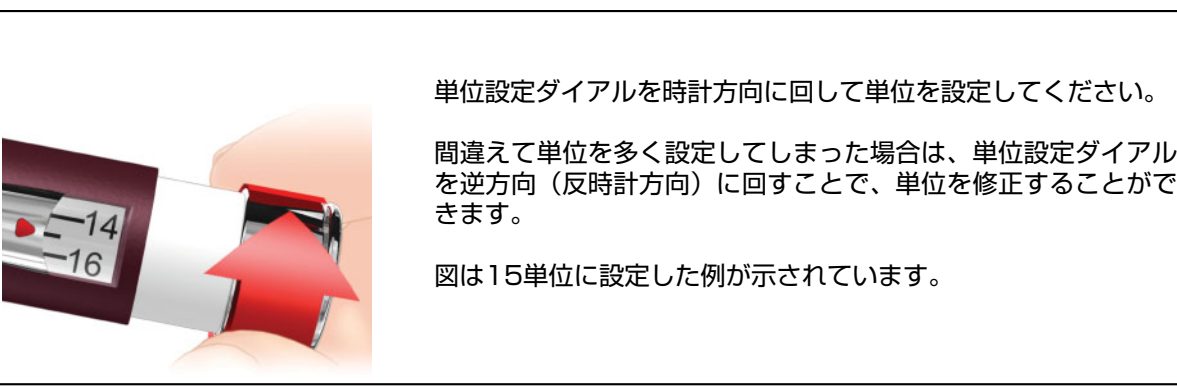
カートリッジを軽く指ではじいてください。

注入ボタンを押して、インスリンが流れ出るのを確認してください。



3. 注射

① 主治医に指示された単位を設定します

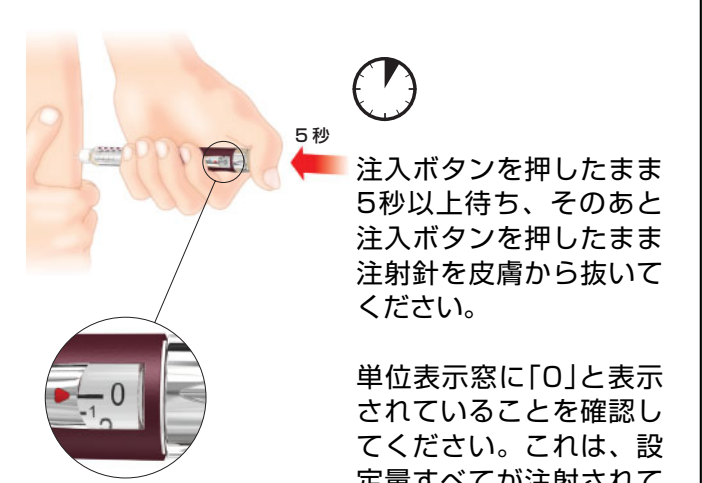


② 注射をします



注射する場所を消毒し、主治医に指示された方法で注射針を皮膚にさします。

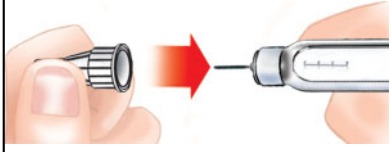
注入が重く感じられる時は、注入をゆっくりと行うようにしてください。図のように親指を注入ボタンにまっすぐ置き、そして注入ボタンが止まるまでゆっくりとまっすぐに押します。



注意：

- カートリッジに残っているインスリン量以上の単位を設定することができます。
- 注射が終了すると、単位表示窓に「0」と表示されています。「0」でない場合は、その数が注射できなかったインスリン量ですので、その数字を覚えておいてください。
- 針と空になったカートリッジを取りはずしてください。
- 新しいカートリッジを「1. インスリンカートリッジを装着します」に従って装着し、「2. 空打ちをします（注射の前に必ず行ってください。）」に従って空打ちしてください。
- 注射できなかったインスリン量を注射してください。

③ 注射針を取りはずします



主治医の指示に従い、指などをささないよう慎重に針ケースを取り付けてください。

④ キャップをします

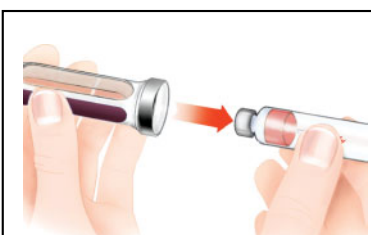


カートリッジホルダーを持ち、注射針を反時計方向に回して取りはずします。取りはずした針は主治医の指示に従って廃棄してください。

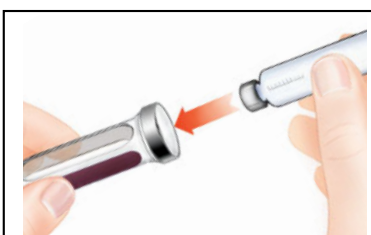
操作方法ーインスリンカートリッジの交換



インスリンカートリッジが空になったら注射針を取りはずし、カートリッジホルダーを反時計方向に回して、ペン本体から取りはずしてください。



カートリッジホルダーを傾けて、空になったインスリンカートリッジを取り出してください。



新しいカートリッジにひび割れや破損がないことを確認してください。弊社の3mLインスリンカートリッジの細い方を先に、カートリッジホルダーに入れてください。

ヒューマペン®ラグジュラのご使用に際して、質問や疑問がある場合は、主治医にご相談いただくか、弊社までお問い合わせください。

お問い合わせ先：**Lilly Answers** リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
0070-800-24-9700（一般の方、患者様向け）

ヒューマペン®ラグジュラは、日本イーライリリー株式会社の3mLインスリンカートリッジ製剤（100単位/mL）の使用に際し、ISO 11608-1:2000及びJIS-T3226-1:2005の定める一般要求条件及び投与量精度に適合しています。

ヒューマログ®、ヒューマカート®およびヒューマペン®はイーライリリー社の登録商標です。ヒューマペン® ラグジュラは特許出願中です。 © 2004-2006 Eli Lilly and Company. All rights reserved.

